

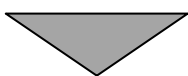
教育委員会 平成 24 年度当初予算 個別説明資料

事業名	教育の日推進事業		
課名	教育政策課		
事業費 (うち一般財源)	4,515 千円 (4,515 千円)	H23 当初予算額 (うち一般財源)	3,417 千円 (3,417 千円)

現状 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本県が抱える教育課題の解決のためには、教育の現状や課題、必要な手立てを教育関係機関・団体をはじめ県民全体で共有し、取り組んでいくことが重要 ◆ 一方、平成 20 年度県民世論調査の結果をみると、県民の教育に対する期待内容が徳島県と比べて低い状況が明らかとなっている ◆ こうしたことから、教育に関する県民の意識を高めていくことが必要である
------------	---



事業目標	<p>県民の教育に対する関心を高め、「志」を持つことで、一人ひとりが教育について考え、行動していこうとする気運をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての市町村において教育データの公表や教育の日の趣旨に沿った取り組みが実施される。
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 高知県教育の日「志・とさ学びの日」推進県民協議会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・趣旨に沿った取組みについて協議 2 教育データの公表 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙面を使って、高知県の教育に関するデータを公表 ・市町村に対しても、可能な範囲で地域の教育関係データを広報誌へ掲載してもらうよう依頼 3 関連事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> 市町村に対しても、可能な範囲で学校開放や各種講演会など趣旨に沿う教育文化行事を関連事業と位置付けたうえで 11 月中に実施してもらうよう依頼 4 「志」発表会及び研修旅行の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・教育宣言の趣旨を踏まえ、「志」を持つことやそれに向かって努力することの重要性を共有するための発表会を開催 ・対象者：県内中学生・高校生 ・発表内容：「志」を弁論、ダンス、歌など自由な形で表現 ・発表者全員による研修旅行の実施 <ul style="list-style-type: none"> 発表者同士の交流によりお互いが良い刺激を受けることで、さらに高い目標を目指す志を育む。 5 広報と市町村・関係団体への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・「志・とさ学びの日」サイトでの広報 ・県広報紙、新聞広告、チラシによる周知 ・趣旨に沿う各種行事を関連行事に位置付けて P R



この事業で期待される成果	<p>高知県教育の日「志・とさ学びの日」の趣旨に沿った取組みにより、教育について考え、関心を持ってもらうきっかけをつくることで、県民に高い「志」を持っていただくと共に、教育に対する意識を高めることができる。</p>
--------------	---

教育の日推進事業

4,515 千円

高知県教育の日「志・とさ学びの日」
こころざし

制定の趣旨

◎すべての県民が、教育について理解と関心を深め、高い志を持つ子どもたちを育み、ともに学びあう意識を高めるとともに、一人ひとりが学ぶ目的や喜びを自覚し、生涯にわたって学び続ける風土をつくりあげていくきっかけとする。

高知県教育の日

「志・とさ学びの日」

(毎年 11 月 1 日)

平成 24 年度の取組み 「志」

- ◎子どもから高齢者まで全ての県民にとって「志」をもつことは重要
- ◎特に将来を担う子どもに重点を置いた取組みを進める
 - ①教育について県民が考えるきっかけづくり
 - ②「志・とさ学びの日」発表会の開催
 - ③広報と市町村・関係団体への支援

①教育について県民が考えるきっかけづくり

◎教育データの公表

- ・新聞一面での教育関係データの公表
- ・市町村広報誌での公表の依頼 など

◎市町村・学校での取組み

- ・教育関係行事の実施
- ・HR等における校長からの話 など

◎関係団体の行事

◎家庭での取組み

- ・我が家における「教育の日」
- ・ノーテレビデー など

◎県教委の行事

- ・教育表彰（学校表彰等） など

②「志・とさ学びの日」発表会（11月）及び研修旅行（12月）の開催

◎県内中学生・高校生による「志」発表会

- ・県内から応募してもらった生徒による「志」をテーマにした様々な表現による発表会を開催（志を語る、志をダンスや歌など自由な形で表現するなど）

◎発表者全員による研修旅行

- ・発表者同士の交流によりお互いが良い刺激を受けることで、さらに高い目標を目指す志を育む。

③広報と市町村・関係団体への支援

◎県の取組み

- ・「志・とさ学びの日」サイトによる広報
- ・県広報紙、新聞広告、チラシによる周知
- ・趣旨に沿う各種行事を「志・とさ学びの日」関連行事に位置付けてPR など

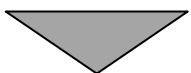
教育委員会 平成 24 年度当初予算 個別説明資料

事業名	若者の学びなおしと自立支援事業		
課名	生涯学習課		
事業費 (うち一般財源)	10,209 千円 (9,993 千円)	H23 当初予算額 (うち一般財源)	10,490 千円 (2,612 千円)

現状 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> ■本県の小中学校における不登校児童生徒、高校中途退学者及び若年無業者の比率が全国上位。 ■学校から離れるなど所属を失った若者は、孤立する恐れがある。 ■ニートや引きこもりなど、困難を抱える若者には、相談窓口だけでなく、具体的な支援を行う必要がある。
------------	--



事業目標	<p>《若者サポートステーションの利用状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■新規登録者数：前年度比 10%増 ■累積進路決定率 42.5% (H23 38.6% 11 月末時点)
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若者サポートステーション事業 <ul style="list-style-type: none"> ◆中学校卒業時及び高校中途退学時の進路未定者を、確実に若者サポートステーションにつなぎ、就学や就労に向けた支援を行う。 ◆ニートやひきこもり傾向にある若者の社会的自立に向けた支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○訪問支援の実施(家庭訪問等) ○臨床心理士による面談 ○教員免許をもつスタッフによる就学支援 ○キャリアコンサルタントによる就労支援 ○社会性を身に付けるソーシャルスキルトレーニングの実施 ○実社会で役立つキャリアスキルトレーニングの実施 ○職場見学・職場体験・インターンシップ・ジョブトレーニング等の実施 2. 教育・福祉・労働機関の関係者を対象とした地域別連絡会(研修会:5ヶ所)及び「若者自立支援スキルアップ講座・セミナー」の開催(2日間) 3. 高校・市町村訪問(中卒及び中退の進路未定者の状況調査) 4. 企業等と連携した若者サポートステーション利用者の職場見学やインターンシップの実施



この事業で期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> ■中学校卒業時及び高校中途退学時の進路未定者に対して、学校教育から継続した支援を行い、利用者の就学・就労に向けた意欲を高めることにより、社会的自立を促し、ニート・ひきこもりを予防する。 ■「地域別連絡会」や「高校・市町村訪問」により若者サポートステーションの役割や支援内容が理解され、関係機関からの誘導と協働した支援が増える。 ■企業と連携した職場見学やインターンシップの実施により、若者サポートステーション利用者の進路決定率が高まる。
--------------	--

《事業の趣旨・目的》

- 中学校卒業時及び高校中退時の進路未定者を、確実に若者サポートステーション(サポート)につなぎ、就学や就労に向けた支援を行うことで、ニートや引きこもりにならないよう予防する。
- ニートや引きこもり傾向にある若者の社会的自立に向けた支援を行う。

《高知県における若者の状況》

- ① 若年無業者数 3,230 人 (1.88%) 【H17 国勢調査：内閣府】
※ワースト 2 位 160 人/年がニート化
 - ② 国公私立高校中退者数 364 人 (1.7%) ※ワースト 13 位 【H22 文科省】
 - ③ 国公私立小・中学校不登校者数 792 人 (1.32%) ※ワースト 4 位 【H22 文科省】
 - ④ 国公私立中学校卒業時の進路未定者 [家事手伝い等含む] 63 人 (0.89%) 【H23.3 県教委】
- ★②は H19：600 人(2.8%)ワースト 2 位、③は H19：946 人(1.49%)ワースト 2 位

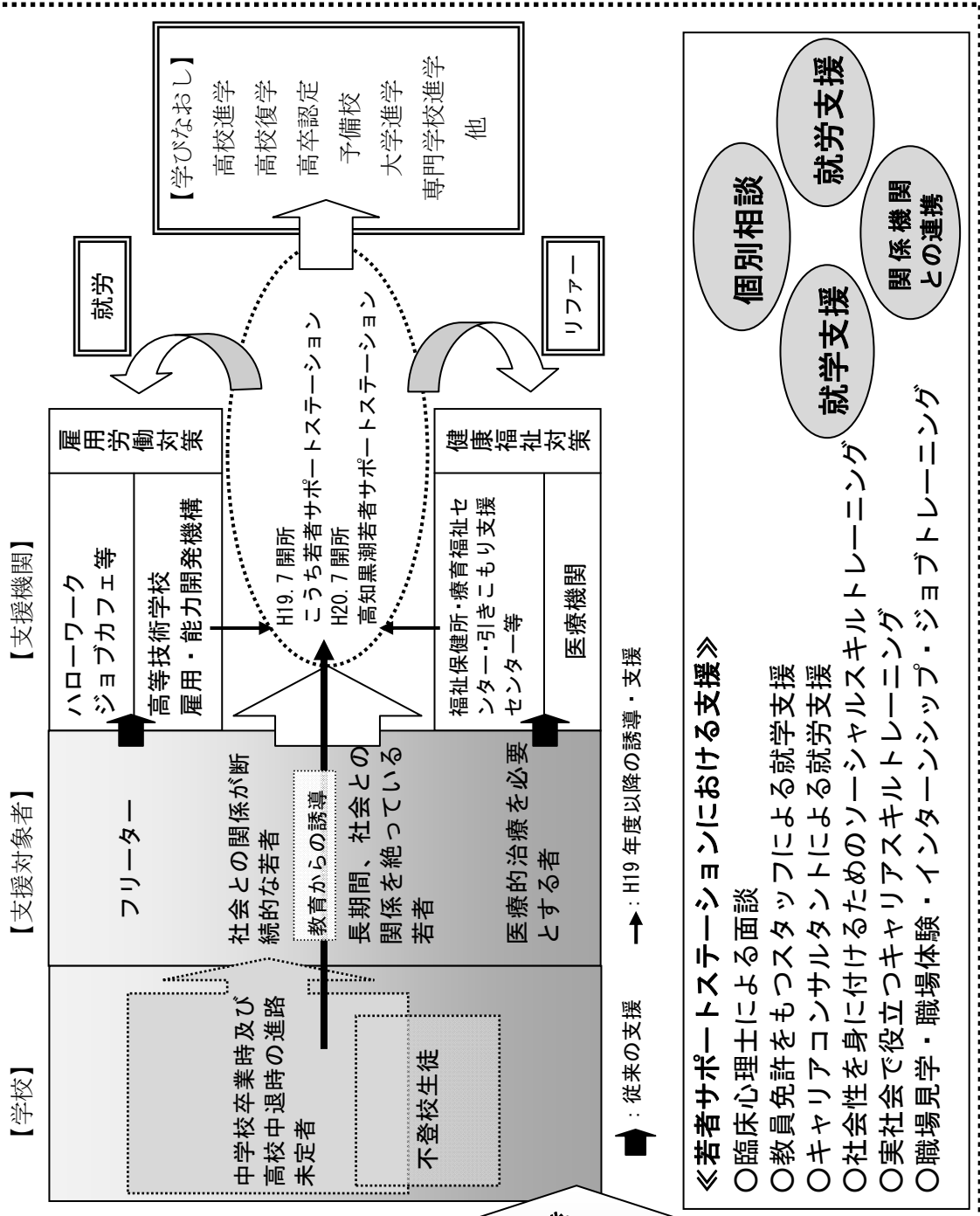
《課題》

- ① 中学校卒業時の進路未定者は、過年度になると対応が難しくなる。
 - ② 高校中退時の進路未定者は、自主的に行動できない場合、ニートになりやすい。
 - ③ 社会との関係を失い、無気力状態が長期化した若者の中には、引きこもりになる恐れがある者がいる。
 - ④ 引きこもりになると、本人や家族がその状態を隠すようになり、孤立する。
 - ⑤ 引きこもりの長期化は、深刻な状況を引き起こす場合がある。
- ★ニート予防には、学校など教育機関から支援機関に確実につなぐことが必要。
★若者が困難を抱え込み、社会から見えなくなり孤立する前に、第三者による支援が必要。
★相談だけでなく、個々に応じた具体的なトレーニングを行うなどの具体的な支援が必要。
★25 才男性・正規雇用の経済効果は、生活保護受給継続と比して約 1 億 5 千万円貢献(H23 厚労省試算)

学校での置き
をフォロー

所属の
喪失

《若者支援の構造》



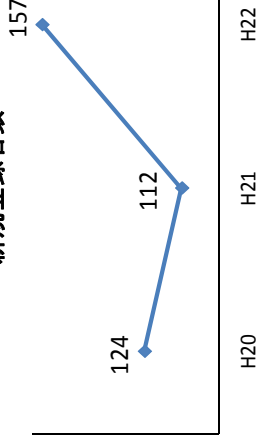
《若者サポートステーションにおける支援》

- 臨床心理士による面談
- 教員免許をもつスタッフによる就学支援
- キャリアコンサルタントによる就労支援
- 社会性を身に付けるためのソーシャルトレーニング
- 実社会で役立つキャリアスキルトレーニング
- 職場見学・職場体験・インターンシップ・ジョブトレーニング

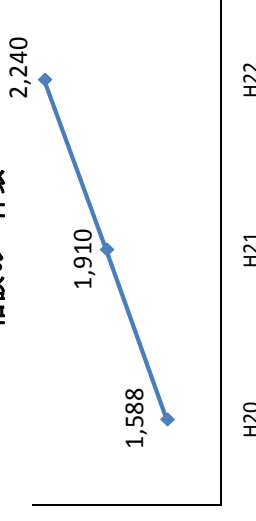
《事業の成果》 H20～H22

- 新規登録者数 H20:124 人→H22:157 人 (26.6%増)
- 相談延べ件数 H20:1,588 人→H22:2,240 人(41.0%増)
- 来所延べ人数 H20:3,619 人→H22:5,224 人(44.3%増)
- 進路決定
 - ・ 単年度決定者数 H20:32 人→H22:73 人(128%増)
 - ・ 累積決定率 H20:21.5%→35.4%(64.6%増)
 - ・ 進学等 H20:9 人→H22:6 人(33.3%減)
 - ・ 就職 H20:23 人→H22:66 人(186%増)
- 6ヶ月後の進路に関する行動変容率 H20:33.3%→H22:80.2% (141%増)
- 学校からの誘導「はばたけネット」(同意書・個人情報票)
 - ・ H20:5 人→H22:31 人(520%増)

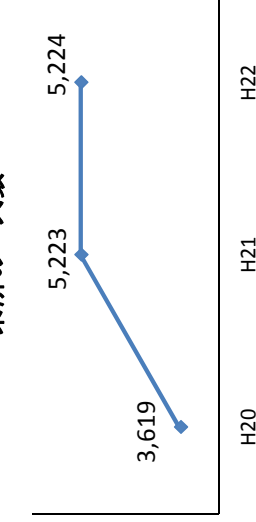
新規登録者数



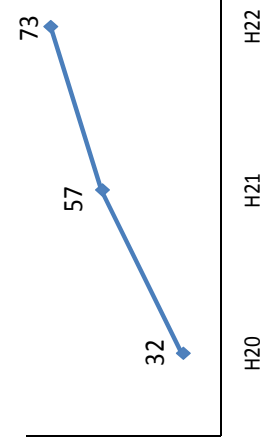
相談のべ件数



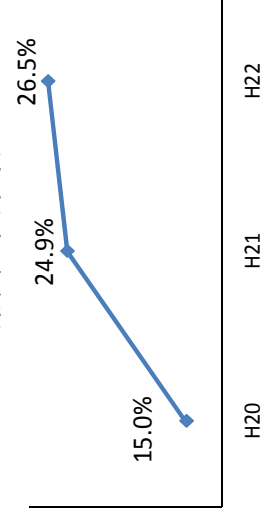
来所のべ人数



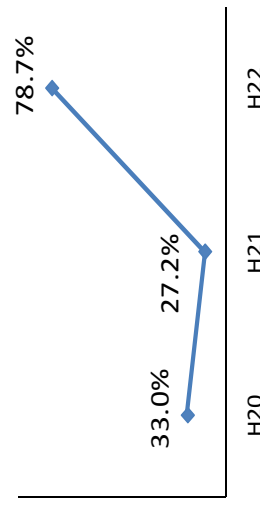
進路決定者数



進路決定率(単年)



進路に関する行動変容率



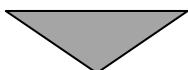
教育委員会 平成 24 年度当初予算 個別説明資料

事業名	【新】高知龍馬マラソン開催事業費		
課名	スポーツ健康教育課		
事業費 (うち一般財源)	20,000 千円 (20,000 千円)	H23当初予算額 (うち一般財源)	一千円 (一千円)

現状 (課題)	<p>○健康志向の高まりが加速する中で、ランニング人口が急増している。</p> <p>○市民マラソン大会の空前の人気により、地域活性化への起爆剤となる。</p> <p>○65 回を数える「高知マラソン」が一定の役割を終える。</p>
------------	--



事業目標	<p>○大会の成功に向け、円滑な大会運営ができるよう諸準備を行う。</p> <p>○県民のスポーツや健康への関心を高め、日本一の健康長寿県づくりにつなげる。</p> <p>○高知県観光の盛り上げりを継続する。</p>
実施内容	<p>○実行委員会設立総会・総会・企画運営委員会の開催</p> <p>○関係機関との打合せ</p> <p>○大会概要</p> <p>①開催日時：平成 25 年 2 月 24 日（日）9:00 スタート</p> <p>②主催：NPO 法人高知陸上競技協会、高知新聞社、RKC 高知放送、高知県、高知市、高知県教育委員会、高知市教育委員会</p> <p>③主管：高知龍馬マラソン実行委員会（事務局：高知新聞社）</p> <p>④開催種目：フルマラソン（42.195 km）</p> <p>⑤コース：城西公園集合 → <u>升形・グランド通り付近（スタート）</u> → 県庁前 → （予定） はりまや橋 → （南国バイパス） → （県道春野赤岡線） → 浦戸大橋 → 桂浜 → <u>春野陸上競技場（ゴール）</u></p> <p>⑥定員：3,000 人</p> <p>⑦参加料：7,000 円</p>



この事業で期待される成果	<p>○生涯スポーツのより一層の普及・振興</p> <p>○経済効果が高まる</p> <p>○地域活性化につながる</p>
--------------	---

新 高知龍馬マラソン開催事業

平成24年度予算額:20,000千円

市民マラソン大会開催の必要性

- ◎健康志向の高まりが加速する中で全国的にランニング人口が増加しており、それに連動して市民マラソン大会が各地で開催され空前の人気となっている。
- ◎県外から多くの市民ランナーが参加することで、地域活性化への起爆剤として期待される。



高知龍馬マラソンの目的

生涯スポーツの振興

「いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむ『生涯スポーツ社会』の実現」

高知市中心部を走る、桂浜周辺を走る、という魅力で参加意欲を向上させることで、大会参加を契機にした、県民のマラソンやジョギング習慣の定着や愛好家の増を図る。

⇒生涯スポーツの普及・振興
県民の健康増進
(基礎体力の向上、健康維持)

スポーツツーリズムの推進

「高知県の観光戦略としてのスポーツツーリズムの推進」

観光地である桂浜周辺をコースとすることで県外ランナーに向けたPR度を高め、観光オフシーズンにおける県外観光客の底上げを図る。

⇒1年間を通じて切れ目のない観光施策と地域の活性化(高い経済効果)

知名度の向上

リピーターの出現

高知龍馬マラソン2013の概要

- 1 開催日時 平成25年2月24日(日) 9:00スタート
- 2 主催 NPO法人高知陸上競技協会、高知新聞社、RKC高知放送、高知県、高知市、高知県教育委員会、高知市教育委員会
- 3 主管 高知龍馬マラソン実行委員会(事務局:高知新聞社)
- 4 開催種目 フルマラソン(42.195km)
- 5 コース 城西公園集合→升形・グランド通り付近(スタート)→県庁前→はりまや橋→(南国バイパス)→(県道春野赤岡線)→浦戸大橋→桂浜→春野陸上競技場(ゴール)
- 6 定員 3,000人
- 7 参加料 7,000円



マラソンによる爽やかな汗が、心と体を健康にし、さらには県の観光振興や地域の活性化に繋がる!!

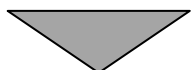
教育委員会 平成 24 年度当初予算 個別説明資料

事業名	日本スポーツマスターズ大会対策費		
課名	スポーツ健康教育課		
事業費 (うち一般財源)	32,682 千円 (30,612 千円)	H23当初予算額 (うち一般財源)	6,197 千円 (6,197 千円)

現状 (課題)	○2012 高知大会より、「日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流」が行われることとなり、5 月には高知県選手団（約 200 名）の派遣、10 月には韓国選手団（約 200 名）の受入の準備等が必要となり、マスターズ開催に向けての準備と並行して行う必要がある。
------------	--



事業目標	○ 全国各地より約 8,000 名を超える選手・監督等が参加される。さらに、今回の大会では韓国から約 200 名の選手等の参加を得て、「第 16 回日韓スポーツ交流事業成人交歓交流」が同時開催される。開催に当たっては、全国、韓国から来県される方々を温かく迎え心に残る大会とし、この大会を「高知の魅力」をアピールする絶好の機会と捉え、高知を訪れる人の増加につなげる。
実施内容	<p>○事業予定</p> <p>①実行委員会総会の開催</p> <p>②企画運営委員会の開催</p> <p>③競技団体・開催市町村との打合せ会</p> <p>④日本体育協会・会場設営業者との打合せ</p> <p>○日本スポーツマスターズ 2012 高知大会</p> <p>①大会開催期間：平成 24 年 10 月 17 日～10 月 23 日</p> <p>②開会式（前夜祭）：平成 24 年 10 月 19 日</p> <p>③事前イベント（スポーツ教室）：平成 24 年 9 月 9 日</p> <p>④実施競技（13 競技）</p> <p>水泳、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、自転車競技、ソフトテニス、軟式野球、ソフトボール、バドミントン、空手道、ボウリング、ゴルフ</p> <p>⑤協賛事業（3 競技）</p> <p>パワーリフティング、ライフル射撃、グラウンド・ゴルフ</p> <p>○日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流</p> <p>【派遣】平成 24 年 5 月 10 日～16 日 【受入】平成 24 年 10 月 18 日～24 日</p> <p>サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、自転車競技、ソフトテニス、軟式野球、ソフトボール、バドミントン、ボウリング【10 競技】</p>



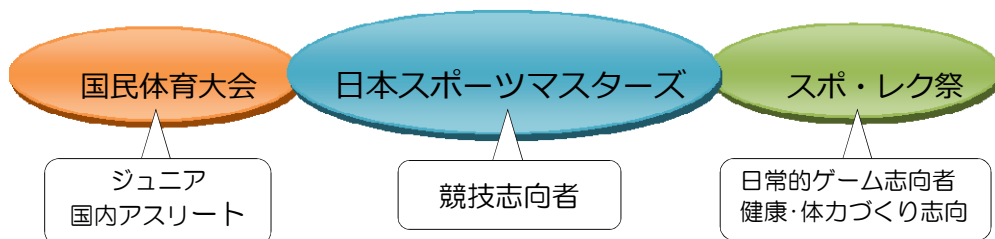
この事業で期待される成果	<p>○経済効果</p> <p>○スポーツの振興</p> <p>○高知県の魅力（自然・文化・産物など）を全国に発信</p>
--------------	---

シニア世代の夢・感動を再び高知で！

日本スポーツマスターズ2012高知大会

趣 旨

スポーツ愛好者の中で、競技志向の高いシニア世代を対象としたスポーツ大会であり、参加者がお互いに競い合いながらスポーツに親しむことにより、生涯スポーツのより一層の普及・振興を図り、併せて、生きがいのある社会の形成と、健全な心身の維持・向上に寄与しようとするものである。



概 要

主 催	公益財団法人日本体育協会 高知県 財団法人高知県体育協会
主 管	高知県開催競技団体
後 援	文部科学省 公益財団法人日本オリンピック委員会 NHK 一般社団法人共同通信社 (以上予定)
会 期	平成24年10月17日(水)～10月23日(火)
関連事業	①事前イベント(スポーツ教室) ②開会式(前夜祭) ③親善ボウリング ④お成り ⑤協賛事業(ライフル射撃、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ) ⑥日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流(派遣・受入)
参加者数	約8,000名
開催競技 (13競技)	水泳 サッカー テニス バレーボール バasketボール 自転車競技 ソフトテニス 軟式野球 ソフトボール バドミントン 空手道 ボウリング ゴルフ



見込まれる効果

- ・経済効果
- ・スポーツ振興
- ・高知県の魅力(自然、文化、産物など)を全国に発信



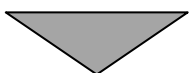
教育委員会 平成 24 年度当初予算 個別説明資料

事業名	新弓道場整備事業費		
課名	スポーツ健康教育課		
事業費 (うち一般財源)	459,675 千円 (52,675 千円)	H23 当初予算額 (うち一般財源)	45,856 千円 (0 千円)

現状 (課題)	<p>高知県立武道館分館(弓道場:近的射場 2 射場、遠的射場 1 射場)は、年間 27,500 人程度(平成 22 年度実績)の利用があるが、現在、次のような課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■利用人数に比べ施設が手狭で過密状態にある。 ■多くの選手を一度に受け入れることができない。(全国大会、合宿等) ■強化練習のため県外に出向いている。 <p>※平成 14 年高知国体では仮施設で競技開催(多額の仮設費用が発生)</p>
------------	--



事業目標	平成 24 年度末までに、新弓道場を建設する。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ■平成 23 年度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 土地造成工事 ・ 実施設計委託、地質調査委託 ■平成 24 年度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築主体工事・設備工事 <ul style="list-style-type: none"> 鉄筋コンクリート造 一部 2 階建て 1階:射場(近的・遠的)、的場・矢取り廊下、観客席、事務室 2階:会議室 屋上 ・ 駐車場・駐輪場整備工事



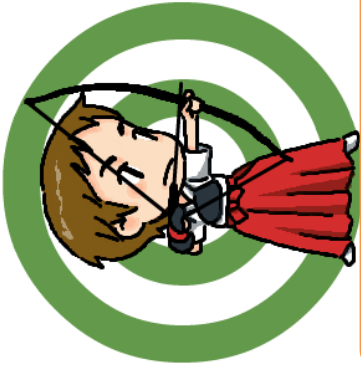
この事業で 期待される 成果	<ul style="list-style-type: none"> ■弓道競技の普及振興、競技力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな弓道場の建設により、練習環境が整い、学生や一般利用者が効率的に練習でき、競技力向上につながる。 ■全国規模の大会や県外チームの合宿の誘致 <ul style="list-style-type: none"> ・ 射場や観客席が十分確保でき、全国大会や合宿に対応できる。 ■緊急避難場所としての活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災機能を有する公園内に建設することから、選手控室となる 2 階部分及び屋上を緊急の避難場所として活用できる。
----------------------	---

新弓道場整備事業

平成23年度：実施設計委託・土地造成費等(45,856千円)
平成24年度：建設工事請負費等(459,675千円)

現状(弘徳館)

- ◆ 近的射場2射場、遠的射場1射場
- ◆ 年間27,500人程度(一般・学生)が利用
 - ・利用人数に比べ施設が手狭で過密状態
 - ・多くの選手を一度に受け入れることができない(全国大会・合宿等)
 - ・強化練習のため県外に出向いている
- ◆ 高知国体(平成14年)は仮設施設で開催(多額の仮設費用)



平成20年12月

高知県弓道連盟から弓道場建設についての要望書提出

高知市の
土地を無償
で借地

高知市弥右衛門公園(防災機能を有する公園)内に

新しい弓道場を建設

平成25年10月

全国健康福祉祭
「ねんりんピック」の開催

施設の
維持管理は
県が行う

期待される効果

- ◆ 弓道競技の普及振興及び競技力の向上
 - ・練習環境が整うことで、学生や一般利用者が効率的に練習でき、競技力向上につながる
- ◆ 全国規模の大会や県外チームの合宿の誘致
 - ・射場や観客席が十分確保でき、全国大会や合宿に対応できる
- ◆ 緊急避難場所としての活用
 - ・選手控室となる2階部分と屋上を緊急避難場所として活用できる



教育委員会 平成 24 年度当初予算 個別説明資料

事業名	図書館活動費		
課名	生涯学習課		
事業費 (うち一般財源)	123,341 千円 (107,248 千円)	H23 当初予算額 (うち一般財源)	46,540 千円 (27,709 千円)

※別途繰越明許 74,207 千円

現状 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度県立図書館の蔵書冊数（雑誌等を除く）約 51 万冊（全国第 46 位） ・同年度の年間資料購入当初予算 3,064 万円（同 41 位）。 ・市町村公立図書館設置率 61.8%（同 37 位 21/34 市町村（未設置 13）） <p>懸案の一つであった「蔵書増による読書環境充実」という点については、新図書館開館準備も踏まえ、平成 23 年度から年間資料購入費を 7,000 万円程度に引き上げ、資料収集を進めているところである。</p> <p>一方で、市町村図書館などへの課題解決支援、また、それを行う人材の育成が、急務となっている。</p>
------------	--



事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県立図書館の機能を強化する。 <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に図書資料を収集して、新館開館時の開架図書の 1/2 は購入後 5 年以内の資料とする。 ・市町村図書館等からのリクエストに素早く応じる体制を整えていく。 <p>実績：H22 物流配送数 68,421 冊→目標 H24 75,000 冊</p> ■ 研修による人材育成を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・職員が専門的な知識や技術を深めることにより力量を高め、図書館サービスの向上を図る。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 読書環境を充実させる <ul style="list-style-type: none"> ・年間 2.8 万冊 (7,000 万円) を平成 23 年度から順次、計画的に購入する。 ・物流システム（市町村等図書館への発送）回数を、週 2 回から 3 回に増やし、迅速に図書資料を送り届ける体制を整備する。 ・移動図書館で、市町村図書館や公民館図書室、学校等約 130 団体を訪問し、直接本を選ぶ楽しみとできるだけ新鮮な図書を届ける。 ■ 人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・経験年数別や専門分野別の県外研修への職員派遣、体系的な研修の実施。 <ol style="list-style-type: none"> ①基礎研修 …… 基本的なサービスが提供できる段階 ②中級研修 …… 専門性を踏まえたサービスが提供できる段階 ③上級研修 …… 指導的な立場に立ってサービスの分析・評価・改善等ができる段階 <p>専門的な分野についてさらに見識を深める段階</p>

<p>実施内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市町村図書館や公民館図書室への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館職員の資質向上を図るための研修を開催。特に初任者研修については、上半期に集中して実施する。 ・ 書架の分類や廃棄図書の選定、また、司書による日常的な業務支援や助言を通じて魅力的な図書館(室)になるための人的支援を実施。
-------------	--



<p>この事業で期待される成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様な図書や課題解決に役立つ情報などを取りそろえていくことにより、読書環境が充実し、高知県の情報拠点としての機能が発揮できる。 ■ 物流システムの回数増加により、住民のリクエストに迅速に応えることが可能となり、情報格差や地域間格差が縮小される。 ■ 職員等の専門性が向上することにより、地域や県民の課題解決を支援する機能が充実する。 ■ 市町村立図書館等への支援を充実することにより、それぞれの図書館が活性化し、今まで以上に十分な連携が行えるようになる。
---------------------	--